

おのみち200km 徒歩の旅で得たものとは・・・

私がおのみち100km 徒歩の旅（以下おの100）に参加しようと思った一番のきっかけは、自分が100kmを歩けるかなという興味でした。しかも、小学校の教師になりたいと思っていた私にとって、子どもたちと一緒に歩くことができ、子どもたちと触れ合うことのできる貴重な体験になるだろうと思って応募しました。そんな感覚だった私ですが、大学生や専門学校生などいろいろな立場、いろいろな考え方のリーダーたちと、おの100に対する共通理解を図っていく中で、私はさまざまな見方や考え方方に触れることができました。おの100は子どもたちにとっての成長の場であると同時に、私自身の成長の場でもあることを感じるようになりました。

第1回ではサブリーダーとして参加し、子どもたちとの関係づくりにおいていろいろと悩むことがありました。私は子どもたちに対して厳しく言うことができませんでした。「厳しく言うと、自分から離れていくのではないか」という不安があったからです。しかしその考えが間違っていることを、子どもたちから教わったのです。私の班の中に協調性のない行動をとる子がいました。はじめはやさしく注意をする程度でしたが、その子のわがままを許していればその子のためにならないと思い、1度だけ大きな声で叱りました。その子は感情的になって物に当たり、私の言葉に耳を貸そうとはしませんでした。私はそれでもなぜ叱ったのかという自分の思いを伝えました。きちんと伝わったかどうかその時はわかりませんでしたが、彼はその後も私についてきてくれて、明らかに変わったように思います。しかも、今年も年賀状を送ってきてくれました。私はその時、「厳しく言ってもその子のためということを伝えればいい、しかも信頼関係を深めることもできる」ということがわかりました。教壇に立つ今では、自信満々で叱ってます！でも大丈夫！フォローもやってます！

また5日間を通してどんな子でも「認められたい」という思いをもっているということを学びました。「あなたならできる」「あなたのいいところはこんなところ」など肯定的な言葉をかけて、その子を認めてあげることが子どもたちのやる気に火をつけ、思いもよらないがんばりを見せてくれました。そういう子どもたちの一面がわかったのも第1回おの100でした。

第2回では給水・レク班の隊長として参加しました。第1回のときと比べて子どもと関わる機会が減りましたが、裏方の仕事の大変さや大切さがわかりました。また周りの人々の支えの大きさに気づくことができました。支えられる側と支える側の両方の立場でおの100に参加したこと、いろいろな場面でもそういう視点で物事をとらえることができるようになったと思います。

おのみち200km（100km×2回）徒步の旅は私にとって本当に学ぶべきことの多いものでした。学生や社会人ボラだけでなく子どもたちからも大切なものを学びました。今でも子どもたちにどんな言葉をかけてやるべきか、どんな風に子どもと関わっていけばよいのかという時の行動の根底には、おの200の経験で得たものがあります。おの100の価値は、100kmを完歩するという達成感だけではありませんでした。人としての引き出しが増え、何より多くの人と関わり、学びあえることにあるのではないかと思います。私はこの経験をいかして今後もがんばりたいと思います。